

平成29年度 草の根事業育成助成報告

平成30年5月19日
調布市ハンドボール連盟

ハンドボールとは...

- 1チーム6人のコートプレイヤーと1人のゴールキーパーが、1個のボールを奪い合い、相手ゴールに投げ込むことで、試合時間内にどちらが多く得点を得られるかを競うスポーツです。
- 走る、跳ぶ、投げるという運動の三大要素に高い能力が求められるため、学校体育教育の指導要綱にも含まれているスポーツです。
- ルールで身体接触が認められているため、「ボールを使った格闘技」と表現されるくらいの激しさも併せ持つスポーツです。
- 1試合で両チーム合せて50～70点の得点が入る、スピード感溢れるスポーツです。
- ヨーロッパではサッカーに次いで人気のあるスポーツで、オリンピック公式種目です。



池原綾香選手
(女子日本代表)

宮崎大輔選手
(日本代表)



部井久アダム勇樹選手
(日本代表)



ハンドボール ミニ知識

●日本代表のオリンピック出場

現在の7人制ハンドボールは、男子が1972年ミュンヘン、女子は1976年モントリオールから正式種目に採用。男子は、ミュンヘン以降、1988年ソウルまで5大会連続出場、(幻のモスクワを含む)、女子はモントリオールに出場、それ以降は出場していない。

●中東の笛問題

2007年に行われた北京オリンピック・アジア予選において、中東国に明らかに有利な判定が随所であり、日本、韓国(ソウル以降はメダル常連国)が出場権を失った。このため、日本、韓国はスポーツ仲裁機構に訴えるとともに、2008年1月にオリンピック予選やり直しを行い、日本国中から大きな注目を集めた。

調布市ハンドボール連盟①

- 1970年頃に、JUKI株式会社を拠点として「調布市ハンドボール協会」が設立され、日本リーグの開催、都大会の運営などの活動を展開。
- ※JUKI株式会社には、1962年に創部された女子チームがあり、1976年日本リーグ創設以来日本リーグに加盟していたため、東京の女子ハンドボールの草分け的存在であり、東京都ハンドボール協会の傘下として調布市ハンドボール協会がJUKI株式会社内に設置されていた。
- 1995年に、JUKIが日本リーグを撤退、活動規模が縮小。
- 2009年に、JUKIが多摩市に移転、調布市ハンドボール協会は消滅（調布市体育協会からも脱退）。

調布市ハンドボール連盟②

- 2014年冬に調布市在住のハンドボール経験者が集い、「調布市ハンドボール連盟」として再起するための準備委員会を発足。
 - ※中心となったのは、JUKIが日本リーグ参戦時に主力選手の一人として活躍、日本代表選手でもあった羽田泰子(現理事長)。JUKI退職後もハンドボールをプレーする中でさまざまな人と巡り合い、調布市にハンドボーラー夫婦が複数住んでいることから、設立について検討を開始した。
- 2015年4月に、役員及び組織を固めると同時に規約及び活動方針を検討、作成。また、この頃当連盟・宮本和美会長(調布市議会議員)より、草の根事業育成財団を紹介され、羽田理事長が訪問、お話を伺った。

調布市ハンドボール連盟③

- 2015年6月に初めて草の根事業育成財団に助成申請。
2016年、2017年と3年間、助成を受けた。
- 2016年4月に傘下の団体(体験教室等の事業を委託、実践する部隊)として調布ハンドボールクラブ(HC調布)を設立。
- 2016年8月以降、3月まで計32回の体験会を開催。
⇒2016年5月には宮崎大輔選手を招き、体験会を開催。
のべ1,000人以上の子供、大人が参加。
- 2016年9月に、ジュニアチームを設立、大会参加。
- 2016年12月に、市内大学体育館にてザンビアU-22代表、調布市高校選抜、HC調布のリーグ戦を開催。

活動方針（抜粋）

【目指すこと】

調布市からオリンピック選手を輩出する
（競技種目はこだわらない）

＝指導の基本方針＝

「怒らない」「怒鳴らない」「命令しない」
「心身の基礎体力の向上」

＝活動内容＝

- ①ハンドボール体験会の継続実施
- ②大人チームの大会参加
（調布市代表として都民大会参加）
- ③小学生チームの立ち上げと大会参加
- ④連盟への参加団体の増加

平成29年度活動実績①

【ジュニアチームの活動本格化】

☆3月末時点の選手数 52名／卒団生4名を含む

☆練習：基本は土曜日午前中、日曜日午前中、2017年10月からは木曜日夕方を追加。遠征も大幅増加。

☆大会参加：4大会（4月、8月、11月、12月）

☆合宿実施：2回（5月、11月）

【体験教室の実施】

☆調布市体育協会の協力の下、市総合体育館で2回の体験教室を実施、のべ100名超の参加者があった。

【渋谷区小中学校での出張授業受託】

☆渋谷区より東京オリンピック気運醸成事業の一環として、5校での出張授業を受託、実施。

平成29年度活動実績②

【都民大会へのチーム派遣】

調布ハンドボールクラブ男女チームを武蔵村山市総合体育館他での第70回都民大会に調布市として派遣

- ・男子 5/27、5/28 ベスト8
- ・女子 6/3、4 準優勝

【備品の充実】

- ・部員増に伴うボール、練習具等不足を補うため、備品の購入を進めた。
- ・念願の折り畳み式ゴールを購入。
⇒保管予定場所が学校都合で使用できなくなり、調整が難航、今月にようやく設置。



・体験会には毎回多くの子供が参加

○



・遠征にも慣れてきました。



・合宿の楽しみは、やはり「これ」です。

渋谷区小学校での出張授業



事業収支

	実績	予算
【収入の部】	476千円	473千円
会費等	98千円	95千円
助成金	378千円	378千円
【支出の部】	476千円	473千円
備品、消耗品費	476千円	473千円
【収支】	± 0千円	± 0千円

(対象外経費除く)

【総括】

＝収入＝

- ・HC調布での協賛金調達⇒連盟は会費と助成金が中心

＝支出＝

- ・助成金対象を備品の購入に絞った。

今後の活動計画/課題

【傘下団体の開拓】

- ・市内高校4校すべてにハンドボール部があるため、顧問の先生の協力を得て、活動範囲を拡大する予定であったが、実施時期の調整が難航したため未実施。
⇒めじろカップ(連盟主催大会)開催を検討する。

【課題】

- ・今年3月に初めて卒団生を輩出するも、市内中学校にはハンドボール部がないため、継続活動できる場がない。
(1名はハンドボール部のある強豪私立中学校に進学)
⇒中学生チームを創設、地域クラブとして活動する。
- ・人数増による練習場所の確保が必要。
⇒市内中学校、公共体育館の使用を交渉中。

2020年には東京でオリンピック・パラリンピックが開催されます。

ハンドボールは、代々木第一体育館で行われます。そこへ私たちが育てた選手を送り込むことは困難ですが、オリンピック出場を夢見る子供たちを育てていきたいと考えています。

子供たちの夢を実現すること、それが私たちの夢です。夢の実現に向けてこれからも頑張っていく所存ですので、応援頂ければ幸いです。

最後までご清聴頂き、ありがとうございました。
